

木村文助の生涯

1882年(明治15)秋田県落合村に生れる。
20歳で秋田師範学校卒業し、教員生活に入り下川沿村川口小学校訓導(今の教頭のような立場)となる。その後三校を経て、29歳で小学校訓導兼校長となる。

綴り方教育に専念すると共に村の青少年を対象に冬期間夜学を開設する。

1917年(大正6)、函館師範学校和田喜八郎校長(秋田県出身)の招きで渡道、翌年大野尋常高等小学校訓導兼校長(36歳)となる。同年児童月刊雑誌「赤い鳥」(主宰鈴木三重吉)が発刊され、綴り方を自らも率先指導し投稿する。毎号のように入選し北海道の赤い鳥学校とまでいわれ、鈴木と親交を深める。

1926年(大正15)、大野青年訓練所主事兼任、村づくりに貢献する。

1927年(昭和2)、その入選作などと論文も入れて文集「綴り方生活 村の子供」を東京から刊行する。翌年砂原小学校へ転勤、「漁村職業の全貌」をまとめ名声を高める。在勤中大野小を中心とした実践を次々著す。戸井村日新小で当局の干渉により1937年(昭和12)55歳で退職。森町に住む。

1941年(昭和16)札幌昭和中学校で再び教鞭を取る。三年間勤め森町へ戻り1953年(昭和28)、71歳で亡くなる。

文助の編著書等

「同窓会誌」継続発刊(大野小)
「綴り方生活 村の子供」(大野小)
「村の綴り方」、「村落児童文選」
「悩みの修身」以上三冊は木村好寄贈
「綴り方生活」、「母の綴り方」(不二男共著)、
「漁村職業の全貌」(砂原小)

つづり方引用

「彼女の履歴」・林美美子著(釜沢みつ)
「北海道教育史」・道教委編(金川重雄)
「続々ほっかいどう百年物語」・中西出版
(田島たき)

その他

「新大野町史」(赤い鳥入選者一覧)
「砂原町史」(木村文助業績)、STVラジオ
放送、NHK大阪テレビ局来訪



北斗市郷土資料館(大野小学校に隣接)

開館 9:00~16:00
休館 第一月曜と年末・年始
Tel (0138) 77-6681

文保研の活動

- 1972年(昭和47) 設立
1981年(昭和56) 大野町民文化祭で初めて綴り方数点を展示する。以後資料収集に努める。
1997年(平成9) 文化講演会「赤い鳥と生活綴り方文集・村の子供」(荒木恵吾)
1999年(平成11) 「赤い鳥」復刻版195冊を寄付金により購入、町教委へ寄贈する。展示会開催。
2000年(平成12) 「木村文助研究」通信発行開始。
2002年(平成14) 文化講演会「木村文助の人となりと綴り方教育」(岡屋昭雄)
2007年(平成19) 「『村の子供』発刊80年&文助没後55年」記念事業(展示会、講演会、森町図書館見学、木村家墓参)文化講演会「木村文助先生の綴り方指導」(平中忠信)



展示会・公民館